

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成23年5月6日 (2011.5.6)

【公表番号】特表2009-534302(P2009-534302A)

【公表日】平成21年9月24日 (2009.9.24)

【年通号数】公開・登録公報2009-038

【出願番号】特願2009-500917(P2009-500917)

【国際特許分類】

C 07 C 235/06 (2006.01)

A 61 K 47/20 (2006.01)

A 61 K 45/08 (2006.01)

A 61 K 47/16 (2006.01)

A 61 K 47/22 (2006.01)

C 07 D 295/18 (2006.01)

C 07 D 295/12 (2006.01)

A 61 K 8/46 (2006.01)

A 61 K 8/42 (2006.01)

A 61 K 8/49 (2006.01)

A 61 Q 5/02 (2006.01)

A 61 Q 19/10 (2006.01)

C 07 C 235/08 (2006.01)

C 07 C 231/02 (2006.01)

【F I】

C 07 C 235/06 C S P

A 61 K 47/20

A 61 K 45/08

A 61 K 47/16

A 61 K 47/22

C 07 D 295/18 Z

C 07 D 295/12 Z

A 61 K 8/46

A 61 K 8/42

A 61 K 8/49

A 61 Q 5/02

A 61 Q 19/10

C 07 C 235/08

C 07 C 231/02

【手続補正書】

【提出日】平成22年3月17日 (2010.3.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

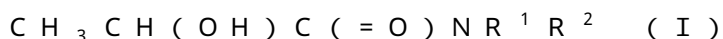
【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

製剤中に存在する少なくとも 1 つの他成分に伴う毒性を低減させるための、前記製剤中での、式 (I)



の化合物の、使用であって、

式中、 R^1 および R^2 は、それぞれ独立して、水素、 $\text{C}_1 \sim 6$ アルキル、 $\text{C}_2 \sim 6$ アルケニルまたは $\text{C}_3 \sim 6$ シクロアルキルであるか；あるいは R^1 および R^2 は、それらが結合している窒素原子とともに、ピロリジニル環、ピペリジニル環またはアゼパニル環を形成する、使用。

【請求項 2】

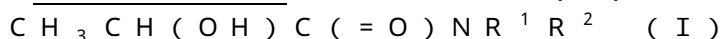
界面活性剤に伴う毒性を低減するための、請求項 1 に記載の式 (I) の化合物の使用。

【請求項 3】

前記界面活性剤がラウリル硫酸ナトリウムである、請求項 2 に記載の式 (I) の化合物の使用。

【請求項 4】

農薬製剤における溶媒としての、式 (I)



の化合物の使用であって、

式中、 R^1 および R^2 は、それぞれ独立して、水素であるか；またはそれぞれがフェニル、ヒドロキシ、 $\text{C}_1 \sim 5$ アルコキシ、モルホリニルおよび NR^3R^4 (R^3 および R^4 はそれぞれ独立して $\text{C}_1 \sim 3$ アルキルである) から独立して選択される 3 個以下の置換基により場合によって置換されている $\text{C}_1 \sim 6$ アルキル、 $\text{C}_2 \sim 6$ アルケニルまたは $\text{C}_3 \sim 6$ シクロアルキルであるか；または $\text{C}_1 \sim 3$ アルキルから独立して選択される 3 個以下の置換基により場合によって置換されているフェニルであるか；あるいは R^1 および R^2 は、それらが結合している窒素原子とともに、それぞれが $\text{C}_1 \sim 3$ アルキルから独立して選択される 3 個以下の置換基により場合によって置換されているモルホリニル環、ピロリジニル環、ピペリジニル環またはアゼパニル環を形成するが、但し、 R^2 がメチルであるとき、 R^1 はメチルではない、使用。

【請求項 5】

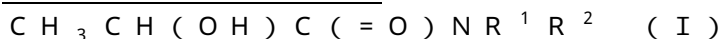
R^1 および R^2 が、それぞれ独立して、水素、または $\text{C}_1 \sim 6$ アルキル、 $\text{C}_2 \sim 6$ アルケニルもしくは $\text{C}_3 \sim 6$ シクロアルキルである、請求項 1、2、3 または 4 に記載の式 (I) の化合物の使用。

【請求項 6】

R^1 がメチルであり、 R^2 が、 $\text{C}_1 \sim 6$ アルキル、 $\text{C}_2 \sim 6$ アルケニルまたは $\text{C}_3 \sim 6$ シクロアルキルである、請求項 5 に記載の式 (I) の化合物の使用。

【請求項 7】

溶媒としての、式 (I)



の化合物の使用であって、

R^1 がメチルであり、 R^2 が、 $\text{C}_1 \sim 6$ アルキル、 $\text{C}_2 \sim 6$ アルケニルまたは $\text{C}_3 \sim 6$ シクロアルキルである、使用。

【請求項 8】

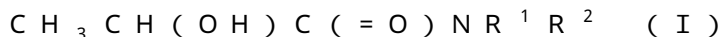
R^1 がメチルであり、 R^2 が $\text{C}_1 \sim 4$ アルキルである、請求項 6 または 7 に記載の式 (I) の化合物の使用。

【請求項 9】

R^1 が水素である、請求項 5 に記載の式 (I) の化合物の使用。

【請求項 10】

式 (I)



の化合物であって、

式中、 R^1 および R^2 は、それぞれ独立して、水素、 $\text{C}_1 \sim 6$ アルキル、 $\text{C}_2 \sim 6$ アルケニルまたは $\text{C}_3 \sim 6$ シクロアルキルであるか；あるいは R^1 および R^2 は、それらが結合している窒素原子とともに、アゼパニル環を形成するが、

但し、

R^2 が水素であるとき、 R^1 は水素、メチル、エチル、プロピル、*n*-ブチル、*sec*-ブチル、*iso*-ブチル、*n*-アミル、*iso*-アミル、*iso*-ブチレニル、*n*-ヘキシル、1,3-ジメチルブチル、アリルまたはシクロヘキシルではなく、

R^2 がメチルであるとき、 R^1 はメチルまたはアリルではなく、

R^2 がエチルであるとき、 R^1 はエチルではなく、

R^2 が *n*-ブチルであるとき、 R^1 は *n*-ブチルではなく、

R^2 が *iso*-ブチルであるとき、 R^1 は *iso*-ブチルではなく、

R^2 が *n*-アミルであるとき、 R^1 は *n*-アミルではなく、

R^2 が *iso*-アミルであるとき、 R^1 は *iso*-アミルではなく、

R^2 が *n*-ヘキシルであるとき、 R^1 は *n*-ヘキシルではなく、

R^2 がアリルであるとき、 R^1 はアリルではない、

化合物。

【請求項 1 1】

R^1 および R^2 が、それぞれ独立して、水素、または $C_1 \sim 6$ アルキル、 $C_2 \sim 6$ アルケニルもしくは $C_3 \sim 6$ シクロアルキルである、請求項 1 0 に記載の式 (I) の化合物。

【請求項 1 2】

R^1 が水素である、請求項 1 1 に記載の式 (I) の化合物。

【請求項 1 3】

ラクチドを式 (II)

HNR^1R^2 (II)

の化合物と反応させるステップを含む

(式中、 R^1 および R^2 は、請求項 1 0 に記載のとおりである)

請求項 1 0 に記載の式 (I) の化合物の製造方法。

【請求項 1 4】

OR^5 が離脱基である式 (III)

$CH_3CH(OH)C(=O)OR^5$ (III)

の化合物を、

R^1 および R^2 が、請求項 1 0 に記載のとおりである式 (II)

HNR^1R^2 (II)

の化合物と反応させるステップを含む、請求項 1 0 に記載の式 (I) の化合物の製造方法

。